

「閉断面リブ鋼床版補強の施工に関する共同研究」 に係る共同研究者の募集について

阪神高速道路株式会社（本社:大阪府中央区、代表取締役社長：山澤 倶和）は、本年 1 月 24 日、弊社が管理する道路構造物のうち大規模更新もしくは大規模修繕を実施しなければ通行止めなどの可能性が高い箇所についての検討結果を「阪神高速道路の更新計画（概略）について」として公表致しました。

このうち、閉断面リブ鋼床版に対する大規模修繕の手法として、弊社では、鋼床版下面から施工が完結する補強法（以下、「下面補強法」という。）について開発を行い、室内試験による基本性能の確認を行ってきました。このたび、下面補強法の実橋への適用を目指し、以下の点に着目した新技術の開発に係る共同研究者を募集することと致しましたのでお知らせ致します。

下面補強法の施工効率化（機械化含む）の視点による改良

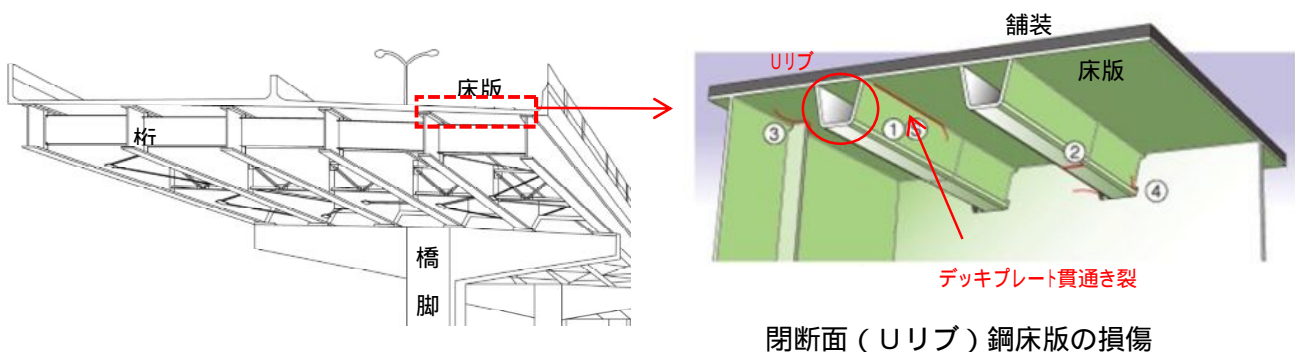
下面補強法の品質向上策

下面補強法の改善案

共同研究期間については、課題解決の緊急性を勘案し、おおむね 1 年程度を考えています。

なお、共同研究契約の履行完了者には、本共同研究成果を反映した工事を総合評価落札方式により発注する場合において、技術評価点の加点措置を行うこととしました。

共同研究の概要については別紙をご覧ください。



「閉断面リブ鋼床版補強の施工に関する共同研究」の概要について

1. 共同研究の名称

閉断面リブ鋼床版補強の施工に関する共同研究

2. 共同研究の目的

鋼床版は軽量であり架設が容易などの利点が多く、阪神高速道路では多数採用していますが、近年、閉断面リブ（以下「Uリブ」という。）鋼床版における疲労き裂が顕在化しています（図-1）。このうち、デッキプレート貫通き裂の予防として、弊社ではSFRC（鋼繊維補強コンクリート）舗装による補強を主として実施しているところですが、その施工にあたっては高速道路の長時間の車線規制が必要となり、交通影響が大きいことから、規制を伴わない対策工法の開発が喫緊の課題となっています。

このような背景から、弊社では橋梁の下からの施工のみで補強可能な工法（以下「下面補強法」という。）について開発を行ってきました。下面補強法の基本性能は室内試験により確認済みですが、現場施工にあたっては、施工精度の確保、品質の確保、施工性の向上に対する課題が考えられます。

そこで、下面補強法の実橋への適用を目指し、具体かつ詳細な課題抽出とその改善を目的として、現場試験を実施し、その補強効果や施工性、品質管理項目の確認・検討を行う共同研究を公募することとしました。

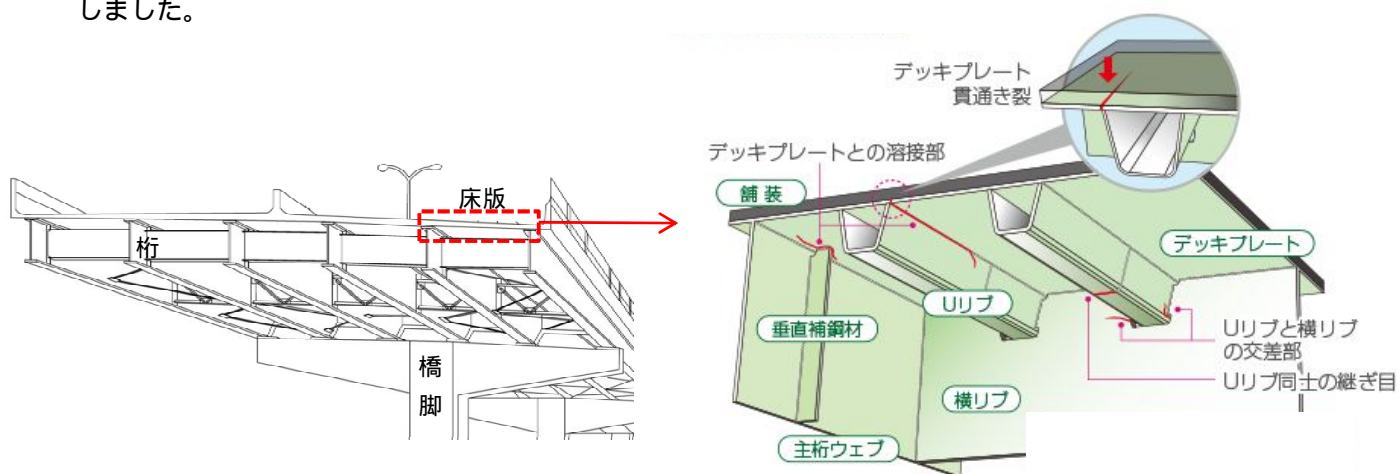


図-1 鋼床版における疲労き裂

3. 実施期間

弊社では課題解決の緊急性を勘案し、共同研究期間は概ね1年程度を考えています。

4. その他

本共同研究の詳細は下記ホームページより説明資料等をご覧下さい。

<http://www.hanshin-exp.co.jp/company/topics/2014-0916.html>